

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

～安全委員会開設7周年記念号～

羊ヶ丘養護園 VOL.26

平成30年2月1日

発行：安全委員会課

『7年間の歩み』

羊ヶ丘養護園 安全委員会委員長

山岸 紀

12月5日の7周年記念集会で皆さんの決意を聞いて嬉しく思い、将来の夢をかなえようとしているというお話に感動しました。7年間の実践の重みを感じました。

皆さんの先輩方が深刻な暴力やいじめの被害を受けていることを知ったのは、8年以上前のことで、その時に受けた衝撃を今でもおぼえています。被害を受けた人の辛さを感じ、それを助けることができない私自身を含めた人間の弱さに直面させられたと感じました。

学校などでのいじめがテレビドラマやアニメを見て、「まわりの人はどうして助けてあげないのだろうか？どうして一緒にいじめてしまうのだろうか？」と思った人は多いと思います。ドラマを見てそう思っても、実際に身近なところでいじめや暴力を見た時に、「それを止める勇気が自分にある」と言える人がとても少ないのが残念ながら今の世の中です。いじめも暴力も犯罪であるにもかかわらず。

しかし現在の羊ヶ丘養護園の皆さんはその勇気をもっていきます。それは養護園の先生方が、「暴力はだめ。口で言いなさい」と繰り返し皆さんに教えているのと、皆さんが「養護園の先生方に言えは、きつと解決してくれる」と信頼しているからだと思っています。

私は、皆さんの意見に真剣に耳を傾けて、必要な時には御自分たちのことも省みる勇氣のある養護園の先生方を尊敬しています。そういう先生方であればこそ、皆さんは困った時に相談できるのだと思います。いじめや暴力を許さない社会を実現するのはとても困難なことですが、皆さんが養護園で経験していることはそういう社会の実現にもつながります。



『安全委員会方式導入7周年を迎えて』

『子どもの「成長」が喜びに』

羊ヶ丘養護園 園長 大畑 和子

早いもので羊ヶ丘養護園に安全委員会を導入してから7年が経ちました。7年前に安全委員会を導入した時には、安全委員会方式を職員も子ども達も正しく受け入れることが出来るだろうかという大きな不安がありました。

しかし、その大きな不安は安全委員会方式の約束事「暴力はいけない」「例え相手が悪くても暴力はいけない」「自分の気持ちは言葉で優しく伝えよう」の約束をみんなで守ることで、「不安」を「自信」に変えることができました。また、厳重注意や一時保護を経験した子ども達と共に様々な場面で葛藤する気持ちを受け止め乗り越えることで、希望をもち目標に向かう子ども達の姿に触れ一緒に歩むことが私自身の原動力になりました。

今年の7周年記念集会には、10年間羊ヶ丘で生活した高校3年生のYさんが「暴力を解決にする為に遅くまでかかわってくれた職員に感謝の気持ちを持つことができ、諦めかけた自分の夢を取り戻すことが出来た」という決意表明の中からこの子の成長を嬉しく思い、子ども達は、私たちのケアをちゃんと見て感じてくれていたことに喜びを感じました。安全委員会方式の取り組みを土台に、子ども達に寄り添い希望を引き出し成長していく過程の中にこそ愛着が育まれることを実感しています。導入の時にキーパーソンだった子も高校を卒業して社会人となり、ベスト接遇賞を会社からもらえるほどに成長しました。暴力をやめて夢が叶い家族と生活できるようになった子どももいます。そんな子ども達の頑張りが私たち職員の勇氣と希望に繋がっています。

これからも、子ども達の成長すること姿を楽しみに安心、安全な生活をみんなで作り上げることが出来るように努力していきます。田嶋先生が7周年記念集会の際に子ども達にプレゼントしてくれた「暴力をしない！させない！羊ヶ丘」のスローガンを大切に・・・

7周年記念集会では、田嶋先生はじめ外部委員の皆様には、たくさん励ましの言葉をかけて頂き本当にありがとうございました。8年目に向かい、たくさん成長の種をまき、「きれいな花」が満開に咲かせることが出来るように子ども達と共に1年間がんばります。



* 7周年記念集会の様子 *

~H29. 12. 5

7周年目のテーマは「暴力をなくし安全で安心な生活をつくろう～学び育ち合う仲間、夢の種を育てあおう」です。共に成長し合い、夢を叶えられる力を身につけられるように頑張りましょう！



記念集会のあとは毎年楽しみにしている会食をしました♪



田嶋先生からは、「暴力をしない、させない、羊ヶ丘！」というスローガンとともに激励のメッセージをいただきました。

今年の記念集会は田嶋先生も来てくれました！！また、外部委員の先生方一人ひとりからも子どもたちや職員に向け、心温まる応援メッセージをいただきました。ありがとうございました。

『羊ヶ丘養護園安全委員会7周年を迎えて』

～一人一人の「思い」と「声」の大切さ～

札幌市立羊ヶ丘小学校 校長 後藤 秀樹

この度の羊ヶ丘養護園安全委員会7周年おめでとうございます。記念集會に出席させていただいたことを光榮に思います。私は、養護園から通う地域の小学校の代表としての出席となりましたが、年間数回の安全委員会にも顔を出させていただいています。日頃はもちろんです。安全委員会での対応・報告を見せていただく度に養護園の職員の皆様のご苦労に対し、頭が下がると同時に、改めて感謝の念に堪えません。

人間は一人では生きていけないのは言うまでもないことですが、複数の人間が集まって集団となると、その中で何かしら問題が起こることもまた事実です。それは園でも学校でも同じです。そして、子どもが何を考えてその行動を起こしたのか、思いを聞き出し、周囲との関係性の修復に向かわせます。しかし、その子の環境や経験の違いにより、円滑な解決を困難にする場合に困惑することがしばしばです。私たちが考える正しさが、子どもにそのまま伝わらないもどかしさを感じます。それでも根気よく対話し子どもとの接点を探りながら、その思いを「言葉」で語らせることを続けているうちに、ある時「失敗した。挽回しなければ。」という「思い」にまでたどり着けることを私たちは知っています。

周年行事に4年続けて出席して感じたことは、職員の方々と子ども達の代表の決意表明の言葉が年々変化してきていることでした。今回、「言葉」として表現されたその決意は、素直で正直な本来的な強さの中に美しささえ漂わせていたと思います。これは安全委員会の成果の一つです。これからも、相互信頼のもとで、安全委員会がますます機能していくことをお祈り申し上げます。

～子どもたちの意見表明～

私は、小学校3年生の頃から9年間、養護園で生活を送って来ました。私が養護園に来たころは、安全委員会が無く、毎日不安な生活を送っていました。その頃は、大きい子が小さい子に暴力を振っているのを見て、いつ自分も暴力を振られるわってしまうのかと、とても怖かったのを覚えています。私が小学6年生の時、安全委員会が出来たばかりの頃は、「何でこんなのがあるの？」とみんな理解していなくて、すぐには暴力がなくなりませんでした。初めの頃は、暴力が起きると解決までに時間がかかり、先生方もいつも遅くまで残ってくれていて、解決できるまで何時間も話し合いをしていました。なかなか暴力がなくなる中、私は大きい子の目が怖くて不登校になってしまい、将来の夢を諦めかけたこともありました。

しかし、安全委員会が出来てから数年が経ち、皆段々と「暴力は人を傷つける」「絶対にしてはならないことだ」と理解するようになり、暴力をしないように気をつけたり、きちんと謝って解決ができるようになっていきました。大きい子が暴力をやめるようになって、私自身も暴力をしなくなりました。暴力を使わなくても、自分の身を守ることを知り、自分の気持ちを言葉で伝えることの大切さを学びました。そして、暴力がなくなっていくにつれ、私の不安も消えていき、また勇気を出して学校に行けるようにもなりました。

私は来春、高校を卒業し、保育士を目指す為、専門学校に入学します。私はたくさんの大人に支えられ、守られたように、今度は自分が子どもを守っていくことができる大人になりたいと思います。

安全委員会の先生方、これからも施設で生活を送る仲間や、卒園して行く私たちのことを温かく見守ってください。

そして、みなさんこれからも暴力のない、安全安心で楽しい養護園の生活をみんなで守り続けていってください。 高3 Yさん

卒園していく
高校三年生
二人からの
メッセージ…*



僕は安全委員会が出来た時からほとんど暴力を振ったことがありません。僕のユニットでは、日頃から小学生が年上に対して態度を悪くすることがありますが、そんな時、僕たち中高生は小学生に分かるように口で伝えようと努力しています。しかし、なかなか伝わらず、結局中高生が我慢しなければならぬことも多いです。小さい子はなかなか理解できないことやすぐに直せないことも多いと思うし、大きい子が我慢することも大切なことだと思いますが、小さい子だからといって何でも許されるということではないと思うので、態度や言葉づかいに意識をして生活してほしいと思います。そして、今の小さい子たちが大きくなった時には小さい子たちを守り、時には我慢したり、譲り合いながら、お互いのことを思いやって生活してほしいと思います。 高3 Yくん

6周年記念集会の時に、「暴力をしない」と決意表明をしてから1年間、私は本当に暴力を止め、今年に入ってから一度も安全委員会を開くことがありませんでした。暴力をやめてから私の生活はとても変わり、仲良く過ごせる仲間もたくさん出来て、毎日楽しく生活を送っています。先生方から褒められることも増え、少しずついろんなことに自信を持つようになりました。そして、自分の中で一番うれしかった事は、暴力をやめたおかげで将来の夢である警察官になるために、勉強を頑張れるようになった事です。私はこれからも暴力をしません。来年は中学生になるので、暴力、暴言をせずに小さい子たちのお手本となり、皆で安心安全な生活を守っていけるように頑張っていきます。 小6 Oさん

有言実行
しました!



僕は養護園で生活していて、中学生の人から暴力や嫌がらせを受ける事があります。でも、どうして自分が暴力を受けるのかは最近までわからず、考えた事ありませんでした。でも安全委員会の中で解決したり、先生たちと話す中で、自分も人のせいにして、暴力を振るい、都合が悪いと無視をしたり、人をにらみつけたり、嘘をついている事もあります。でもこれまでは自分では直すことが出来ませんでした。だから、今は養護園の先生たちに教えてもらいながら、どうすればみんなと仲良く生活していけるのか勉強している最中です。僕はこれからも、相手の気持ちが分かる人になりたいです。 小5 Mくん



～職員の意見表明～

4月に来てすぐに子どもたちと喧嘩をした私は、この先養護園でやって行けるのかとても不安に感じていました。しかし、子ども達と楽しい時間を過ごし、職員の皆様がたくさん話を聞いて頂いて、少しずつ養護園で働くことが楽しくなってきました。これからも子ども達と一緒に、楽しい事をしている時には全力で楽しみ、間違ったことをした時には正しい方法を一緒に学んでいきたいと思っています。 職員 菅野

羊ヶ丘養護園に安全委員会がつくられて7年が経ちました。この7年間、皆で一生懸命暴力のない生活を作ろうとした努力の結果、比較的落ち着いた生活を送れるようになったと思います。ですが7年前に私が一生懸命暴力から守ろうとした子ども達は今、暴力の加害者側となっている子どもたちもいます。暴力から守ることは出来たのかもしれませんが、本当の意味で彼らの心を守る事や生きることの尊さを教える事が出来なかったのだと思います。安全委員会は被害者も加害者も、そしてそこに関わる大人も、失敗から学び、共に成長していくことに意味があります。ポプラのユニット長として、これからも安心で安全な生活を守っていききたいと思います。 職員 松本

～7周年記念研修会の様子～

研修テーマ：希望を引き出し応援する～生い立ちの整理

講師：九州大学名誉教授 田嶋誠一氏

田嶋名誉教授が本園の7周年記念集会、札幌市児童養護施設協議会主催の研修のために来札して頂いたことを機に、12月6日に本園の職員への園内研修会が開催されました。

「希望を引き出す支援」、「効果的な応援面接」「わかりやすい伝え方」「施設の安心安全」という大まかに4つのカテゴリーに分けて具体的な支援を学ぶことができました。希望を引き出す支援では、子どもの欲をどんなことでもいいから引き出すこと、自身の課題に向き合う為に困り感を引き出すことを学びました。

また、発達障害を抱える子どもたちも多くいる中で、子どもの特性（持ち味）を活かしたコミュニケーションの方法という、職員がすぐに実践に活かしていける学びを得ることができました。

研修後半では、それぞれの職員が日頃悩んでいることを伝えるディスカッション方式がとられ、スーパーバイズして頂くことができ、受講した全職員が学びをレポートにまとめ、田嶋名誉教授にもお送りしました。その後、田嶋先生から「このようなみなさんの学ぶ姿勢と自分できちんと考えていく姿勢こそが、年末年始の私へのなによりの贈り物になりました。」と、大変嬉しいメッセージが送られてきました。

田嶋先生には、この度の研修会を通して励ましの言葉も多く頂き、職員の意欲と自信へと繋がるとても良い機会となりました。



～職員感想～

今回、初めて田嶋先生のお話を聞かせていただき、子どもたちが持っている希望を引き出すためには最も切実なニーズである安心・安全が保障されること、そして、そのために安全委員会方式が導入されていることを実感することができました。

また、子ども自身が困り感に気づきにくい場合には、複数の職員が連携しながら不適切な行動に対して毅然とした対応を取り、しっかりと歯止めをかけることによって困り感を引き出すことに繋がるという助言もいただきました。今後、心理療法担当職員の立場から暴力と向き合い、子どもたちの持つ希望を引き出すためにどのような支援ができるのかについて考える貴重な機会をいただいたことを大変感謝しております。

心理療法担当職員 大野由麻

今回の研修は、子どもたちの成長について考える機会となりました。子どもたちが暴力に使うエネルギーは、本来、成長に使われるべきエネルギーであるということに自分自身納得しました。加害者、被害者共に壮大なエネルギーが使われていることを受け止め、子どもたちが自分の希望を持って生活するため、安心安全な生活環境にあることを実感できるように、職員側も一緒に取り組んでいくことが大切であると思いました。研修の後に子ども達の集会があり、高3男子の意見表明の中で自分が小さい時は年上児童が怖かった。安全委員会が始まってから暴力はなくなり、自分は良かったと思った。今一番年長で小学生が騒がしくしている姿を見ると昔なら年上児童にうるさいと言われ、暴力を振るわれていると思うことがあり、本当に今は平和になったと語っていました。その子の語りから、これからも子ども達と共に安心安全な生活作りに取り組まなければならないと思いました。ありがとうございました。

児童指導員 神田知幸



今回、田嶋先生の研修会に参加して感じたことは、毎月行う応援面接で、私は子どもたちに目標を尋ねると『暴言、暴力をしない』等がほとんどであり、田嶋先生も話されていた『算数を頑張る』というような大人が喜ぶ目標しか引き出せていませんでした。田嶋先生のお話を聞き、子どもの希望（欲）の引き出し方、希望への支援について学び、今後も子どもたちが安心・安全な生活を送れるよう努めていこうと思いました。

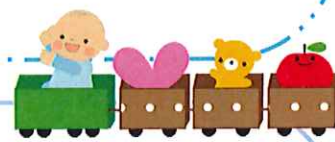
羊ヶ丘養護園安全委員会7周年を迎え、また新たな気持ちで子どもに寄り添いながら、安全委員会の取り組みを行っていききたいと思います。とても勉強になり、実りのある研修会でした。

保育士 川瀬美希

今回田嶋先生の園内研修に参加させて頂き、子ども達の希望を引き出す為には頑張ろう、やってみようと思えるような声掛けが日々の生活の中で大切なことであると改めて感じました。子ども達にとって小さなことにも「応援しているからね」という言葉が、身近にいる職員から言われることで勇気に繋がったり、前向きな一歩となるのではないかと感じました。

また、子ども達が安心して安全な環境の中で生活していけるよう、場に応じた適切な対応が出来るよう経験を積み、日常的に愛着関係を形成できるよう努力していきたいと思いました。貴重なお時間、ありがとうございました。

保育士 辻佑里奈



安全委員会を導入して、7周年が経ちました。私は現在のはばたきユニットで低学年の男児7名を職員3名で担当しています。

家庭的養護の推進、少人数グループケアに伴いより密着した生活環境で生活している子ども達にとって、安全委員会は自分の失敗を認め振り返り、自らと向き合う大切な場所だと思います。

些細な事に不満を抱き暴力をしてしまう子、自分の思いを言葉で表現するのが苦手な子、課題は様々ですが、「みんなと仲良く生活したい」「人に優しくできる人になりたい」と話してくれる彼らがあります。安全委員会の取り組みを通し、相手を思いやる気持ちを育み、嬉しい時は分かち合い、困った時は助け合いの出来る子ども達になって欲しいと願っています。

保育士 一戸菜月

今回の田嶋先生の研修に参加して感じたことは当園の安全委員会の取り組みも8年目に入り、様々な課題が出てきているが、その課題を乗り越えていくための方針がこの研修によって明確化したことです。さらに研修に参加して今までの自分の安全委員会対応の不甲斐なさや失敗ばかり感じましたが、田嶋先生より当園の安全委員会の取り組みの内容を評価して貰えた時に、今までみんなで頑張ってきた努力が安全委員会方式を考案なさった方から最大限に評価してもらえてとても嬉しかったです。これも今まで安全委員会方式による対応を職員児童一丸となって行ってきた結果の産物であると改めてこの研修に参加して強く感じられました。今回の研修に参加出来て本当に良かったと思います。

安全委員会課 主幹 小野一貴

～編集後記～

この度は、田嶋先生をはじめとする外部委員の皆様の支えがあり、無事に当園の安全委員会設立7周年記念を迎えることができたこと、大変うれしく思います。安全委員会設立7周年を記念し、田嶋先生による貴重な園内研修会を開催することができたと同時に、記念集会では外部委員の皆様にご直接子どもたちの成長を見てもらえたことが、職員としてとてもうれしかったです。

8周年目に向かい、これまでの歩みを大切にしながら職員と子どもたちが日々支え合い、頑張り合いながら、また成長した姿をお見せできるよう精進していきたいと思ひます。安全委員会課